

■てんかん重積状態の診断加療目的でのジアゼパム投与における予後関連因子の前向き観察研究

(倫理審査委員会 承認受付番号62)

てんかん重積状態は、てんかん発作状態が長時間続くことで脳に深刻な損傷を与えてしまう病態です。しかしながら、症状は全身の痙攣だけでなく、意識状態の変化(急に会話せず反応しなくなる)や、手がピクっとするだけなどわずかな運動症状のみを呈することも多く、临床上は見逃されやすいです。

脳梗塞や認知症既往ではてんかん発症リスクが上昇するとされ、高齢化がすすむ南和地域では、脳梗塞や認知症などの既往を持っておられる患者さんが多く、南和地域でもこれから患者数の増加が見込まれます。本研究は、てんかん重積状態を強く疑う患者さんを脳波検査の所見から早い段階で拾い上げ、治療に結びつけることで1人でも多くの患者さんに適切な治療ができる様に手順作成することを目的としております。

今回、当院で脳波を施行し、脳波所見から、てんかん重積状態を強く疑った患者さんを対象とし、診断目的で抗てんかん薬の投与を必要と診断した場合には、抗てんかん薬を投与し、てんかん重積状態の診断に役立てます。

今回使用する抗てんかん薬(ジアゼパム)はてんかん治療の標準的な薬剤ですが、薬剤投与に伴う酸素化不良の恐れもあるため、必ず医師立ち合いのもとで、心電図、脈拍、血圧、酸素飽和度をしっかりモニターし、酸素投与の準備を行ったうえで施行しますのでご安心ください。

この研究で得られた成果を専門の学会や学術雑誌に発表する可能性があります。ただし、成果を公表する場合には、臨床データを使用させて頂いた方のプライバシーに慎重に配慮します。個人を特定できる情報が公表されることはありません。

この研究は南奈良総合医療センターの倫理委員会の審査を経て承認を得ています。これらの研究において、ご自身の提供された情報等について患者様またはご家族が問い合わせたい、もしくは利用を拒否したいなどの場合には下記にご連絡ください。なお、拒否されても患者様へ診療上の不利益などは生じませんのでご安心ください。

南奈良総合医療センター 脳神経内科

TEL 0747-54-5000

担当者

小原啓弥